

(評価基準)

1. はい

2. いいえ (どちらかの数字を記入してください)

	自己評価の観点	評価
第1章 総則 教育の基本		
1 ・教育・保育の基本		
1	保育指針を読み、その内容を理解していますか。	1
2	保育指針の新旧を比較して読んだことがあり、その違いを説明できますか。	
3	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮して進めることを理解していますか。	1
4	子ども一人一人が生命の保持が図られ、安定した情緒の下で、自己を十分に発揮する体験が出来るように、心がけていますか。	1
5	子どもの主体的な活動を促し一人一人が意欲をもって遊べるような援助を心がけていますか。	1
6	子ども一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うように努めていますか。	1
7	保護者と共に、子どもを心身ともに健やかに育むよう、努めていますか。	1
2 ・保育の配慮（不適切保育に関する内容）		
8	1日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して、保育を展開していますか。	1
9	登園時の子どもの健康観察を行っていますか。	1
10	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけていますか。	1
11	子ども一人一人に、わかりやすい温かな言葉で、穏やかに話しかけていますか。	1
12	「早くしましょう」など、せかす言葉を使わないで一人一人に合わせた対応を心がけていますか。	1
13	「ダメ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしていますか。	1
14	「まってて」「あとで」などと言わず、なるべくその場で対応するようにしていますか。	1
15	「できない」「やって」「いや」などと言ってくるときその都度気持ちを受け止めていますか。	1
16	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声をかけたりしていますか。	1
17	登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまう事がないようにしていますか。	1
3 ・全体的な計画・指導計画作成と評価		
18	全体的な計画は、園の方針や目標、子どもの発達過程を踏まえ、保育の内容が組織的・計画的に構成され、園全体を通して総合的に展開されるように作成されていますか。	1
19	全体的な計画は、子どもの家庭の状況、地域の実態、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的な見通しもって作成していますか。	1
20	指導計画は「全体的な計画」などに基づいて作成していますか。	1

	自己評価の観点	
21	指導計画には、教育及び保育の期間や子どもの生活経験、発達の過程など考慮して具体的なねらいと内容が設定されていますか。	1
22	長期的な見通しをもった指導計画を立て、職員で共有していますか。	1
23	指導計画は、クラスや子ども、又家庭及び地域の実態を考慮して作成していますか。	1
24	指導計画に基づいて、環境を構成していますか。	1
25	年・期・月案などの長期的な指導計画と関連させて、より具体的な週・日案などの短期の指導計画を作成していますか。	1
26	子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動が展開できるように、週・日案などの指導計画を作成していますか。	1
27	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成していますか。	1
28	子どもの活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれていますか。	1
29	入園時期には、生活のリズムや安全面に十分配慮して指導計画を作成していますか。	1
30	入園時期には家庭との連携の大切さに配慮して指導計画を作成していますか。	1
31	満3歳未満児については、入園までの個々の生育歴などを踏まえ、個別的に指導計画を作成していますか。	1
33	自分の保育について反省・評価し、それを次の指導計画に活かしていますか。	1
34	指導計画を子どもの発達の姿、興味、関心に基づいて見直し、次の計画作成に活かしていますか。	1
35	子どもの個人記録などは、個人情報保護法などに基づいて管理していますか。	1
36	その日にあった出来事や気になる子どもの様子などを他の職員と共有していますか。	1
37	子ども一人一人に適切な活動を提供し、楽しい体験ができるように配慮していますか。	1
38	行事の内容についてはその価値を十分検討し、適切なものを選び子どもの負担にならないようにしていますか。	1
4. 配慮の必要な子どもの保育		
39	配慮の必要な子どもの保育について園全体で定期的に話し合う機会を持っていますか。	1
40	配慮の必要な子どもが園生活を送るにあたり、その特性に合わせた個別支援のための計画を立てていますか。	1
41	配慮の必要のない子どもも配慮の必要な子どもも、互いの良さを感じ取るように保育をしていますか。	1
5. 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」		
42	「幼児保育を行う施設において育みたい資質、能力」「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力などの基礎」「学びに向かう力・人間性」について理解していますか。	1
43	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝えあい」「豊かな感性と表現」について理解していますか。	1
44	「幼児期までに終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況を作ったり必要な援助を行ったりしていますか。	1

	自己評価の観点	
45	小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに子どもの姿を共有するなど、就学前の教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図っていますか。(担当職員)	
6・子どもの発達		
46	子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達の連続性に配慮して保育をしていますか。	1
47	発達過程は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達として捉えていますか。	1
48	子どもの人権や一人一人の個人差を尊重して保育をしていますか。	1
49	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意していますか。	1
50	子どもが、興味や関心を持ったものに対して自分から関わろうとしている姿を認めたり、励ましたりしていますか。	1
51	心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握していますか。	1
52	保育士が、子ども同士の関係の基盤となるように、一人一人の子どもと信頼関係を構築していますか。	1
53	発達の気になる子どもや障害のある子どもに対しても、子ども自身の力を十分に認め、適切な援助及び環境構成を行っていますか。	1
54	園の生活になじみにくい子どもに対しても、一人一人に応じた適切な援助及び環境構成を行っていますか。	1
第2章 「ねらい」及び「内容」		
1. 乳児保育に関わるねらい及び内容		
(1) 身体的に発達に関する視点 「健やかに伸び伸びと育つ」※乳児保育担当者、又過去に担当していた方はお答えください。 それ以外の方も、興味・関心があればお答えください。		
55	温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すように努めていますか。	1
56	子どもが自ら体を動かそうとする意欲が育つようにしていますか。	1
57	一人一人の発育に応じて、這う・立つ・歩く等、体を動かす楽しさを十分に経験できるようにしていますか。	1
58	授乳は個人差やその子どもの欲しがる時を尊重していますか。	1
59	抱いて目を合わせたり微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳していますか。	1
60	離乳食は、一人一人の育ちやその日の体調に合うように工夫していますか。	1
61	一人一人の子どもが生活リズムに合った睡眠がとれるように、静かな空間を確保していますか。	1
62	優しい言葉をかけて、おむつを替えた心地よさ、清潔感を伝えるようにしていますか。	1
(2) 社会的に発達に関する視点 「身近な人と気持ちが通じ合う」		
63	一人一人の状態に応じて、スキンシップをとったり、子どもの甘えなどの依存欲求を満たすようにしていますか。	1
64	発声・喃語等にゆったりとやさしく応えていますか。	1
65	ゆっくりとやさしく話かけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにしていますか。	1
66	一人一人の子どもに、いつでもやさしく対応し保育者などと一緒にいることを喜ぶような声かけをするように努力していますか。	1

	自己評価の観点	
67	子どもが自分の気持ちを表した時には、その気持ちを理解し受け止めていますか。	1
(3) 精神的発達に関する視点 「身近なものとの関り感性が育つ」		
68	身の回りの物に対する興味や好奇心を持てるように、身近な生活用具・玩具や絵本などを用意していますか。	1
69	音・形・色・手触りなどを考慮した玩具を用意していますか。	1
70	子どもの探索意欲を満たすような活動を取り入れていますか。	1
71	子どもの発達に即した絵本を用意していますか。	1
72	体を適度に動かす遊びや、リズムを伴った触れ合い遊びを十分に取り入れていますか。	1
73	探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては常に十分な点検を行っていますか。	1
2. 1歳以上3歳児未満児の保育に関わるねらい及び内容		
(1) 健康 ※1歳以上3歳未満児の保育を担当、過去に担当していた方はお答えください。それ以外の方も興味・関心があればお答えください。		
74	生活のリズムが形成できるよう食事や午睡、遊びと休息などに配慮していますか。	1
75	走る・跳ぶ・押す・ひっぱるなど全身を使う遊びを楽しめるように配慮して保育をしていますか。	1
76	排泄に関しては個人差に合わせて、少しずつ慣れさせるようにしていますか。	1
77	食事・排泄・睡眠・衣服の着脱・身の回りの清潔などは、子ども一人一人の状況に応じ、落ち着いた雰囲気の中で、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して対応していますか。	1
78	ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わえるようにしていますか。	1
79	基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との連携の下で行っていますか。	1
(2) 人間関係		
80	子ども一人一人が自己を十分発揮しながら、様々な場面で他の子どもとの多様な関りが少しずつ持てるようにしていますか。	1
81	子どもの気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっていますか。	1
82	周囲の人と共に過ごす心地よさを感じることができるよう、子どもの状況を良く捉え、その思いを受け入れながら関わっていますか。	1
83	自分のまわりに様々な人がいることに気付くような声かけをして、周りの子どもに関りを持たせるようにしていますか。	1
84	思い通りに行かない時など、子どもの気持ちを受け止めるようにしていますか。	1
85	自分の気持ちを相手に伝えることの大切さ、また、相手の気持ちに気付く事の大切さなどについて丁寧に伝えていきますか。	1
(3) 環境		
86	見る・聞く・嗅ぐ・味わうなどの感覚の働きが豊かになるように、安全で活動しやすい環境での探索活動などを促していますか。	1

	自己評価の観点	
87	玩具・遊具・絵本などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しめるような環境を用意していますか。	1
88	身の回りの物に触れる中で、形・色・大きさ・量などの物の性質や仕組みに気付くようにしていますか。	1
89	様々なものに関わるなかで、発見を楽しんだり、考えたりすることの出来るように援助していますか。	1
90	身近な生き物との関りを通して生命の尊さに対する気付きを促すような関りをしていますか。	1
91	地域の生活に興味や関心を持つように、話をしたり散歩に行ったりしていますか。	1
(4) 言葉		
92	自分で言葉を使おうとしたときに、応答的な関わりをしたり、話しかけたり、間違っている、ありのまま受け止めたりしていますか。	1
93	「おはよう」などの心のこもった日常の挨拶をしていますか。	1
94	保育者などを仲立ちとして、生活や遊びのなかで友達とのやり取りを楽しめるようにしていますか。	1
95	片言から2語文、ごっこ遊びでのやり取りなどが出来る程度と言葉の習得が進む時期であることを理解し、その時期にあった援助が出来ていますか。	1
96	絵本や物語などは、子どもの発達や興味・関心に即したものを提供していますか。	1
97	ごっこ遊びなど楽しい雰囲気の中で、言葉のやり取りが出来るように子ども同士の仲立ちを行っていますか。	1
(5) 表現		
98	歌や簡単な手遊びに慣れ親しみ口ずさんだり、歌に合わせて楽しみ体を動かすことができるようにしていますか。	1
99	水・砂・土・紙・粘土など、様々な素材に触れることができるよう環境をいつも整えていますか。	1
100	生活の中で様々な音・形・色・手触り・動き・味・香り等に気付いたり、感じたりできるような環境構成になっていますか。	1
101	音楽・リズムやそれに合わせた体の動きを表現できる場を作っていますか。	1
102	受容的な関わりの中で、子どもが自信をもって表現できるように、保育の環境を整えていますか。	1
103	子どもがイメージや感性を豊かにする経験ができるよう工夫していますか。	1
104	自分の力でやり遂げる充実感などに気付けるよう適切に援助していますか。	1
3・保育の実施に関わる配慮事項 (乳児・1歳以上3歳未満) ※現在、乳児・1歳以上3歳未満児の保育を担当 又は過去に担当していた方は答えて下さい。それ以外の方も興味・関心があればお答えください。		
105	「授乳・離乳の支援ガイド」を読んだことはありますか。	1
106	食事は子供が機嫌良く、眠くならずに食べられるように工夫していますか。	1
107	子どもが寝るときには仰向けに寝かせ、呼吸確認をきちんと実施していますか。	1
108	一人一人の子どもが、眠い時に眠ることができる場所を用意していますか。	1
109	一人一人のオムツを交換する度に、手洗いを徹底していますか。	1
110	進級などで保育者が代わる場合は、子どもが不安にならないように、職員間で情報を共有していますか。	1

第3章 健康及び安全		
1・健康支援		
163	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かしていますか。	1
164	身長・体重などの定期的な計測や健康診断などの結果から、子どもの発育状況を把握して、日常の保育に生かしていますか。	1
165	子どもの与薬を要請された場合、嘱託医や掛かりつけ医の指示などの留意事項に基づき対応していますか。	1
166	家庭では十分な睡眠をとるなど、健康な生活リズムを身につけるように保護者との連携に努めていますか。	1
167	子どもの中に感染症が発生した時、発生状況や予防対策など共有し保護者に連絡していますか。	1
168	園での活動の様子や発達の状況などを、保護者に伝えていますか。	1
2・食育		
169	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、配慮していますか。	1
170	食べ物を残したり偏食したりするとき、過度に叱ることがないように心がけていますか。	1
171	子どもが栽培したり、収穫したものを食育イベントで使ったり食べるなどの機会をつくっていますか。	1
172	食事のマナーについて、食事をしながら話しかけるなど、自然に身につくように工夫していますか。	1
173	子どもの体調に応じて、食事の量を調節するなどの配慮をしていますか。	1
174	自然の恵みとしての食材や、調理する人への感謝の気持ちが育つように心がけていますか。	1
175	保育者自身が「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちをもって食事ができるよう努めていますか。	1
176	毎月の食育イベント計画に際しては子どもが興味を持ち、参加できるように工夫していますか。	1
3・環境・衛生管理・安全管理		
177	保育者として服装や身支度などにも配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけていますか	1
178	室内の温度や湿度、換気を常にチェックしていますか	1
179	一人一人の子どもの服装、頭髮、爪などの清潔に心がけていますか。	1
180	子ども一人一人の発育及び発達の状態をよく把握したうえで、常に体の状態を細かく観察していますか。	1
181	感染症に関する知識を習得し、流行期や疾患状態を把握していますか。	1
182	保護者の気持ちに配慮し、送迎時に安心できるような関りをもてるように心がけていますか。	1
183	不審者が園内に侵入した際に、どのような対応をすればよいか理解していますか。	1
4・災害への備え		
184	ハザードマップの正しい見方を知っていますか。	1
185	地震・豪雨などの際の、園から避難場所への避難経路を把握していますか。	1
186	災害時の避難場所について、日頃から保護者に目につくような場所に、その避難場所名などを掲示してありますか。	1

187	非常持ち出し袋がどこにあるか知っていますか。	1
188	非常持ち出し袋の中身について、点検していますか。	1
	自己評価の観点	1
189	火事・地震以外の災害を想定した避難訓練をしていますか。	1
190	避難訓練を振り返り、うまくいった点や反省点を話し合い、次の訓練に生かしていますか。	1
第4章 子育て支援		
1・園児の保護者に対する子育て支援		
191	送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、コドモンの連絡の中で情報の共有をしたりしていますか。	1
192	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるように心がけていますか。	1
193	保護者からの相談内容などを、自分一人の問題にしないで園全体で共有し受け止めるようにしていますか。	1
194	子育てについて保護者からの相談に応じ、共通理解を得るために懇談会や個別面談などの機会を設けていますか。	1
195	保護者の考えや提案を積極的に聞き、適切と思うものについては保育に取り組むようにしていますか。	1
2・地域における子育て支援		
196	地域の家庭を対象とする相談や遊び場の提供など、子育て支援のための取り組みを理解していますか。	1
197	一人一人の子どもについて、虐待を見抜くことができるように配慮していますか。	1
198	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談する外部の関係機関などを知っていますか。	1
199	虐待が疑われる保護者と子どもに対する適切な対応を、理解していますか。	1
200	虐待の疑いがあると情報を得たとき、児童相談所などに照会・通告を行う園の体制を理解していますか。	1
第5章 職員の資質向上		
201	園の保育理念や基本方針・保育目標を、正しく述べることができますか。	1
202	子どもの最善の利益を考慮した保育をすすめるために園内外の研修に参加していますか。	1
203	自らの判断で、園の内外における研修などに積極的に参加していますか。	1
204	自己評価等で課題をみつけ、その課題の解決のために計画的に自己研鑽していますか。	1
205	保育指針に園の自己評価が努力義務として義務付けられていることを知っていますか。	1
206	園の保育内容などについて自己評価の結果を、公表するように努めなければならない事を知っていますか。	1
207	研修の他に保育の専門書などを読むなどして、保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めていますか。	1
208	自分の保育について、園長などから感想や意見、アドバイスを感情的にならずに受け止めるようにしていますか。	1
園独自の取り組みについて		
209	集団活動がしたくないと意思表示している子どもにはできるだけ個別対応ができる方法を考えている	1
210	その活動（制作や遊びで）をもっとやりたい子にはできるだけかなえられるよう環境設定をしている	1
211	時間になったから、という理由ですぐに片付けさせるようなことはせず、少し前に予告し見通しが持てるようにしている	1
212	保育者の声や動きは人的環境として意識し、大きな声や急いだ動きはしないようにしている	1

213	子どもに動いてもらう時にはやさしく声を掛け、一方的にならないよう心掛けている	1
不適切保育について		
214	人権擁護のチェックリストを活用し自らの保育を振り返っていますか。	1
215	不適切と思われる保育を見たとき声を挙げていますか。	1
216	不適切保育と指摘されるような言動はしていませんか。	1
217	他の人の良い保育に気づき、褒めていますか。	1
218	不適切保育に関して職員間で相談したり、払拭できるよう協力したりしていますか。	1

	園全体評価	園長
今年度の評価点 (保育や自己資質等で高く評価できる点)	(個人) ・必要時にリーダー会議を行い、業務改善に努められた。 ・フリースタッフの配置や指示を明確にし、動きやすい環境が作れた。 ・スタッフが体調不良で急に休みになった時は、迅速に体制変更ができた。 ・迷ったり困った時は、担任間、他スタッフと相談し進めることができた。 ・今まで受けたことがない内容の研修に参加したことで新たな学びができた。 ・にじぐみが3月の参観を初めて保育室内で行う内容にし、新たな方法にチャレンジできた。 ・保護者の方から相談を受けることがよくあったので、対応についてスキルアップができた。 ・マイナスな声掛けにならないよう意識できたことで、子どもたちの気持ちに寄り添いながら関わる事ができた。 ・子どもたちが手遊びや読み聞かせを楽しんでくれた。 ・子どもたち一人ひとりの様子に合わせて保育を進めることができた。 (クラス) ・一人ひとりが満足して遊べるよう工夫できた。 ・クラス間で連携し、保育をヘルプし合えた。 ・その日の保育をその日のうちに振り返り見直せた。 ・担任間で良い関係を築き、穏やかな雰囲気が作れた。 ・2歳児は昨年の改善点を意識し、長袖の袖口を持って上着が着れるようにできた。 ・2歳児は絵カードを使って散歩ペアを決めたことで、ペアが固定されず、また、喜び手を繋ぐことへのきっかけが作れた。 ・センサリーマットや指先遊びができる手作り玩具で一年間楽しめた。 ・卒園アルバムは早期から少しずつ作成を始めたことで、余裕をもって完成させられた。	

今年度の課題点（保育や自己資質等で努力を要する点）	（個人） ① 困っていることが言い出せないスタッフがいないようにしたい。 ② 自分に余裕がない時に、子どもに寄り添うことが上手くできない事があった。 ③ 行事の準備や書類提出がギリギリになってしまうことがあった。 ④ トラブルや怪我を気にして、室内での運動遊びやリズムあそびがあまり取り入れられなかった。 ⑤ 部屋の配置や一日の流れが固定化してしまい、あまり変化がつけられなかった。 ⑥ 手遊びなどをする時、子どもの注目を集めることが難しかった。 ⑦ 個人差に配慮する保育の知識をもっと深められたらよかった。 （クラス） ① 室内での運動遊びが少なかった。 ② 低月齢児が多かったこともあり、低月齢に合わせた保育になりやすく、高月齢児への配慮がもう少し必要だった。 ③ ベビーベッドやベビーラックの上を玩具の置き場にしがちだった。収納の見直し。 ④ 歩行が進んだ後半につきぐみ単独で散歩に行く機会が増やせなかった。
----------------------------------	--

次年度の改善点 (保育や自己資質等で次年度に改善すべき点)	(個人) ①、②、職員同士が話しやすい職場環境作り。 マイナスなことに流されない。プラスの手本を見つける。 ③ 準備はきちんと計画し、余裕をもって進める。 ④、⑤、⑥ チャレンジを恐れない。 新体制になってからも、保育者間で密に相談、連携しよりよい保育になるよう最善を考える。 子どもの目線に立てる保育、環境作りの継続。 保育者自身が楽しんで保育を行う。 ⑦ 理想を子どもに求めすぎず、“一緒に”の気持ちを忘れない。 積極的に研修に参加し学び深める。 (クラス) ① 室内運動遊びを充実するために、2グループに分ける時、静と動の遊びに分けてみる。 ② 高月齢児は上のクラスに混ざる機会を増やし、満足できるようにする。 ③ 収納の見直しと整理。使いやすくする。 前期・後期、発達や興味に合わせ玩具の選別をする。 手作り玩具は傷みや壊れをチェックしリニューアルする。 ④ リーダー会議を活用し、各クラスの保育をスムーズにする。
--	---

(園長総評)

・ 評価点 ・

- ① 園で大切にしていること、できるだけ個別、少人数での丁寧な保育、子ども自身が選択することを尊重し、満足できることを大切に保育が行われていました。
- ② 外部研修には全員が年に3回以上参加し、積極的に学びを深めスキルアップに努めたことで、自分の保育を振り返る機会が保育に反映されていました。
- ③ 協調性を大事にして、お互いを認め合い協力し合う関係作りが継続されていることで、クラス間の連携が良好に取れており、子どもたちに良い保育環境の提供に繋がっていました。

・ 課題点 ・

- ① 保育がパターン化しがちに感じられました。一日の中に静と動の時間をまんべんなく取り入れ、子どもたちに豊かな時間を提供していきましょう。発達段階や興味を敏感に感じ取り、玩具の入れ替えが遅れないように整えましょう。課題は皆で話し合い良い方法を見つけてください。
- ② 変化を恐れずに、環境の見直しや玩具の取り入れ方、子どもたちが選びやすい状況を常に考えていきましょう。
変化がない、はいいことではありません。
良い関係作りを継続しながら新しいチームでスキルを上げていってください。